

# インドネシアの金利引き下げについて

2016年1月15日

1月14日(現地時間)、インドネシア中央銀行は定例の金融政策理事会を開き、政策金利であるBILレート(Bank Indonesia レート)を0.25%引き下げ、7.25%とすることを決定しました。昨年2月以来、およそ11か月ぶりの利下げとなります。また、翌日物預金ファシリティー金利、貸出ファシリティー金利もそれぞれ0.25%引き下げました。

昨年12月の会合で金融市場の安定という条件付きながら早期の利下げ実施が強く示唆されていたことから、為替市場では事前の織り込みが相応に進んでいたとみられ、今回の利下げ決定を受けた直後の市場の反応は限定的でした。

## 《利下げの背景》

低迷する国内景気をインフラ投資等の財政出動と金融緩和(利下げ)の両面から底上げしようというのが今回の利下げ決定の背景と考えられます。

中央銀行は、昨年10月の政策会合以降、金融緩和の余地が拡大していると言及してきましたが、同時に米国の利上げが間近に迫る環境下での金融緩和となるため、インドネシアからの資金流出が加速し通貨価値の安定が損なわれるリスクにも警戒を強めてきました。

昨年12月に米国で利上げが開始されましたが、今後の利上げペースが緩やかなものにとどまるとの見通しにも支えられ、今のところインドネシアルピア相場は安定を保っています。また、インフレに関して総合CPIの前年比伸び率が目標レンジ内に収まってきたこともインドネシアルピア相場の安定と相俟って今回の利下げ決定を後押しする材料になったとみられます。

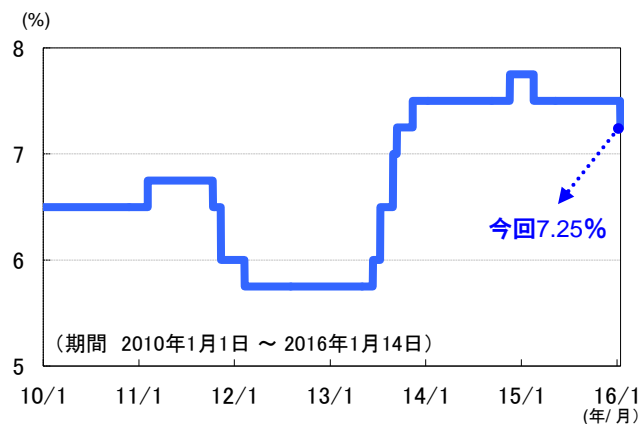
## 《今後の見通し》

2015年前半は政府予算の執行の遅れが景気の押し下げ要因になりましたが、7~9月期以降はインフラ投資に伴う政府支出の回復がようやく景気底上げに寄与するようになりました。

また、インフレに関しては、昨年11月分以降、総合CPIの伸び率が大幅に鈍化しており、中央銀行の定めるインフレ目標のレンジ内に収まってきました。

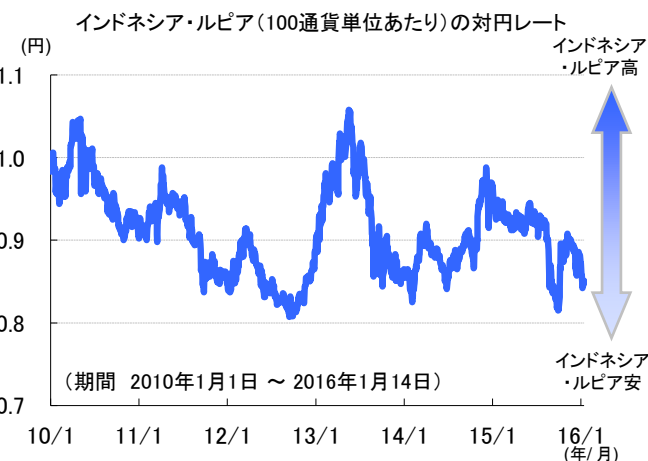
インドネシアルピア相場は、暫くは中国経済の動向、新興国市場全般における投資家のリスク許容度といった外的要因に振られやすい状況が続くとみられますが、国内では金融緩和や財政出動による景気の底上げが期待でき、次第に安定した値動きになるとみています。

### 《インドネシアの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

### 《インドネシア・ルピアの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。